（一財）自治体国際化協会ロンドン事務所マンスリートピック（2014年10月）

【「モンキー・メイヤー」はいかに奮闘したか ～ 猿を絞首刑にした伝説持つ英北部の街で】

ロンドンの中心部で2014年9月末、今年で6回目となる「ジャパン祭り」が開催された。「ジャパン祭り」は、日本の文化を英国に紹介するイベントであり、今年は、日本の地域を宣伝するマスコットである「ゆるキャラ」がメインイベントに登場した。熊本県の「くまモン」や、群馬県の「ぐんまちゃん」などがトラファルガー広場に設置されたステージに現れ、集まった多くのロンドン市民の喝さいを浴びた。

このように可愛らしいマスコットが地方自治体や地域に関連付けられるのは日本独特の現象であると思われるかもしれない。しかし、実は英国でも2000年代の初め、直接公選首長制度の採用をきっかけとして、イングランド北東部のハートリプール市で、「ゆるきゃら」に匹敵するような可愛いマスコットが地方自治体と強い接点を持ったことがあった。

ハートリプール市は、北海に面した人口 9 万人余の都市である。地方自治体の区分は、広域自治体と基礎自治体の両方の機能を兼ね備えた一層制の「ユニタリー（unitary）」である。同市は、伝統的に労働党の牙城であり、2000年までの約20年間、一貫して労働党が市議会の過半数の議席を維持し、支配政党の座を守っていた。2000 年以降、2 回にわたり（2000～2004年、2008～2010年）、「支配政党なし（No Overall Control、NOC）」[1]の時期があったが、2010年以降、再び労働党が支配政党となっている。

英国の中央政府は現在、2010 年に誕生した保守党と自由民主党の連立政権で運営されているが、それ以前は、13年間にわたり、労働党が政権に就いていた。労働党政権は、「2000年地方自治法（Local Government Act 2000）」の制定によって、地方自治制度改革の一環として、イングランドに直接公選首長制度を導入した。同法は、直接公選首長制度を導入するには住民投票で住民の賛意を得なければならないと規定し[2]、ハートリプール市では、2001年10月に行われた住民投票で、51％が賛成票を投じた。投票率は31％だった。

こうして2002年5月に実施されることになったハートリプール市の初の市長選で、候補に名乗りを上げた人の1人が、同市在住の当時28歳の男性、スチュアート・ドラモンド氏だった。当時市内のコールセンターで働いていたドラモンド氏は、仕事の傍ら、地元のサ

[1] 地方議会で、いずれの政党グループも過半数の議席を獲得できていない状態のことを「支配政党なし」という。「支配政党なし」の地方自治体では、通常、最も議席の多い政党グループがその他の政党グループと連立し、政権運営を行う。
[2] 現在までに制度が改正され、住民投票を実施しなくても、議会の決定のみで直接公選首長制度を導入できるようになっている。

ッカーチームであるハートリプール・ユナイテッド（Hartlepool United）の猿のマスコット「ハンガス（H’Angus)」としても働いていた。ドラモンド氏の「ハンガス」としての仕事は、同チームの試合時、猿の着ぐるみを着て観客を盛り上げることだった。(「ハンガス」の写真は、下記のハートリプール・ユナイテッドのウェブサイトを参照のこと。
http://www.hartlepoolunited.co.uk/news/article/250714-my-first-match-1782389.aspx)

「ハンガス」という名前は、19 世紀からハートリプール市に伝えられている伝説にちなんでいる。言い伝えによると、ナポレオン戦争が行われていた 19 世紀初頭、フランス軍の帆船がハートリプール市の沖合で難破し、地元住民は、浜辺で、船からの漂着物に混じって、船に乗っていたらしき 1 匹の猿を発見した。猿は、軍人や船員たちを楽しませるためか、フランス軍の軍服を着ていた。生まれてから一度も、猿はおろかフランス人も目にしたことがなかった地元の住民たちは、この猿をフランスのスパイだと思い込み、浜辺で即席の裁判に掛けて有罪判決を下したあげくに、その場で絞首刑に処してしまった。これは、ハートリプール市のみならず、英国では良く知られた伝説であり、同市の近隣地域の住民が時にハートリプール市民を指して使う「モンキーハンガー」というニックネームは、この言い伝えから来ている（「ハンガー（hanger)」は、「ハング（hang、絞首刑にする)」という動詞から派生した「絞首刑にする人」という意味の単語である。猿のマスコットの名前の「ハンガス」は、「ハング」と、男性のファーストネームである「アンガス」をつなげ、縮めたものである)。

ハートリプール市で市長選が行われることを知ったドラモンド候補は、ハートリプール・ユナイテッドと「ハンガス」の周知宣伝のみを目的として、直接公選首長選挙に出馬した。公約は、猿のマスコットらしく、「全ての学校児童に無料でバナナを支給する」というものであった。ドラモンド候補はそれまで、政治や地方自治の分野で働いた経験は全くなかった。本人いわく「立候補は完全な冗談」で、マスコミや中央政府、またハートリプール市の市議会議員からも真面目に受け止められていなかった。しかし、2002 年 5 月 2 日に実施された選挙では、大方の予想を裏切り、2 位の労働党候補に約 600 票差という僅差でドラモンド候補が当選した。

後に、当選は「全くの予想外」だったと語ったドラモンド候補だが、当選発表の直後に開票所で行ったスピーチでは、「猿のことは忘れて下さい。私はスチュアート・ドラモンドです。私はハートリプール市長で、猿ではありません」と述べ、立候補の動機はともあれ、有権者の期待に応えて市長職を引き受ける決意を表明した。この出来事は、国内のみならず、海外のメディアでも、「猿市長の誕生」として大々的に報じられ、多くの関心を集めた。

しかし、政界からは、この結果に対する反発が大きく、ハートリプール市内の選挙区選出の下院議員で、ブレア首相（当時）のブレーンとして直接公選首長制度の導入に尽力したピーター・マンデルソン議員（労働党政権で貿易・産業大臣、北アイルランド大臣、ビジネス・改革・職業技術大臣などを歴任）は、ドラモンド候補の当選に激怒したと伝えられている。また、自由民主党からは、「直接公選首長制度は遊び半分で立候補する者に当選する機会を与えてしまうという我々の主張が正しかったことが証明された」との声も聞かれた。

地域の美化、犯罪防止などに尽力、2 回の再選果たす

ドラモンド市長が後に新聞等のインタビューで語ったところによると、当初は、同氏の市長就任を快く思わない市議会議員が少なからずいたために、市長としての仕事が困難だったこともあった。しかし、本人いわく「半年間で 6 つの修士号が取得できるほど」猛勉強をした甲斐あってか、次第に市長の仕事に馴染んでいった。

ドラモンド市長が実施した施策の 1 つには、地域の美化や犯罪抑止などを目指すプログラム「オペレーション・クリーンスイープ（Operation Cleansweep)」がある。これは、毎月、ハートリプール市内の特定のエリアを選び、複数の公的機関の連携で、道路の清掃や舗装、住民の健康診断や健康的な食生活に関するセミナーの開催、犯罪や反社会的行動の取り締まりといった取り組みを集中的に行うというもので、大きな成功を収めた。「全ての学校児童に無料でバナナを支給する」という公約は経費の関係で実現できなかったものの、市内の公立学校での果物の供給を増やした。また、市内の複数のユース・センターの閉鎖計画を覆すなどした。さらに 2010 年には、国際的な大型帆船のレースである「トール・シップス・レース」を誘致することに成功し、同年のこのレースは、ハートリプール市の港でゴールした。

こうした功績が評価されてか、ドラモンド市長は、2005 年の 2 度目の市長選で、次点の労働党の候補に約 1 万票の大差をつけて再選を果たした。2009 年の 3 度目の市長選では、次点との得票差は 800 票ほどに縮まったものの、イングランドの直接公選の市長で、3 期目の当選を果たした初のケースとなった。

また、監査委員会（Audit Commission）[3]が 2002 年から実施していた地方自治体の評価制度「包括的業績評価委制度（CPA)」で、ハートリプール市は、2008 年に同制度が廃止されるまで一貫して最も高い評価を獲得した。さらに、2010 年には、ウェブサイト「シティ・

[3] イングランドの地方自治体等の外部監査に責任を有する組織であるが、2015 年までに廃止されることが決まっている。

メイヤーズ（City Mayors）」[4]が実施する世界の都市の最も優れた市長を投票で選ぶ「ワールド・メイヤー賞」の選出で、ドラモンド候補が最終候補の 1 人に残った。

このように、外部からも高く評価されていたドラモンド市長であったが、2012 年 2 月には、市長と一部議員との対立が表面化し、労働党グループ所属の全ての内閣メンバー計 6 人を市長が解雇する事態が起きた。これは、6 人の議員が、市長の予算案を採決する市議会の本会議に出席しなかったことを受けての措置であった。同市議会の労働党グループによると、6 人の議員が本会議を欠席した理由は、市長の予算に含まれていた市の情報技術（IT）サービスの民間委託などの内容に反対していたためであった。内閣メンバーの大半が欠席したまま進められた本会議で、労働党グループは、予算の修正動議を通すことに成功し、結局、修正を加えた予算が承認された。

しかし、この時点で既に、ドラモンド市長の市長としての日々に終わりが見え始めていた。というのも、この前年の 2011 年 10 月、ある住民が、市長やハートリプール市の幹部職員の給与が高額すぎるとして、直接公選首長制度の採用を取り止めるべきかを問う住民投票を実施するよう求める請願を市に提出していたのである。請願は、ハートリプール市民 3500 人以上の署名が添えられていた。さらに、2012 年 8 月には、同様の住民投票の実施を求める動議が労働党グループによって市議会に提出され、可決された。

これを受け、2012 年 11 月に実施された住民投票では、「直接公選首長制を維持する」が 5,177 票だったのに対し、「委員会制度に移行する」が 7,366 票を集め、ハートリプール市が直接公選首長制度の採用を取り止めることが決定された。投票率は 18%だった。ドラモンド市長は、結果を受け、メディアに対し、「投票率の低さにがっかりしたが、ハートリプール市民の決断を信頼しなければならない」と述べた。ハートリプール市は、ドラモンド市長の任期満了の 2013 年 5 月まで直接公選首長制度を維持し、市長の任期終了と同時に委員会制度に移行した。

政治や地方自治の経験がない猿のマスコットが突然、小都市の市長に就任したことは英国政界の珍事であったが、ドラモンド市長の仕事ぶりは、多くの人々の予想を良い意味で裏切るものであったというのが多くの人の共通の見方である。ハートリプール市が住民投票で直接公選首長制度から委員会制度への移行を決めた際、「ガーディアン」紙の社説は、次のように述べ、ドラモンド氏の政治家としての成長ぶりを評価していた。

> 「*ハートリプール・ユナイテッドのマスコットを宣伝する目的で、凍えるように寒いサッカー場の観客席で考え出された冗談は、結局、トニー・ブレアの首相としての在*

---

[4] http://www.citymayors.com

任期間と同じくらい長く続いた政治家としてのキャリアを生み出した」

「*2002 年の当選を誰よりも驚いたのは、猿の着ぐるみを着ていたスチュアート・ドラモンド本人だった。しかし、彼はこの仕事に体当たりで挑み、2 回の再選を経た今では、すっかり市長職が板についている*」

ドラモンド氏が市長職を去ってから 1 年ほどが過ぎた現在でも、その名をメディアで目にすることはあり、例えば著名ジャーナリストのサイモン・ジェンキンズ氏は、2014 年 10 月末、ロンドンの夕刊紙「イブニング・スタンダード」に寄稿したロンドン市長に関する記事の中で、「ハートリプールではバナナを持った猿が市長に選ばれたが、蓋を開けてみたら、さほど悪くない市長であった」と述べていた。